

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520103

研究課題名（和文） 環北太平洋北方圏の先住民文化について、その現代的意義をモチーフとした空間造形

研究課題名（英文） The Extended Concept of Sculpture: From the Researches into the Indigenous Culture of the North Pacific Rim

研究代表者

坂巻 正美（SAKAMAKI MASAMI）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60292067

研究成果の概要（和文）：この創作研究は、北方先住民文化の研究調査をもとに進めた。その研究方法及び成果は、今も狩猟採集の知識を継承して生きる人々を訪ね、地域の歴史や取材先で出会う出来事を造形材料とし、自身の内的経験と重ね、インスタレーションとして表現する作品である。彫刻作品「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」シリーズの創作研究を通じ、彫刻概念のひとつの拡張として現代社会に先住民の叡智を活用する方法をさぐることができた。

研究成果の概要（英文）：These creative works was carried out on the basis of my research of northern indigenous cultures. The method of study is to visit and interview people who still inherit the knowledge of hunting and gathering and to learn the history of the area. The outcome is to express the inspiration obtained from anecdotes and events I encountered in the process of the fieldwork and inner experience of my own as an installation. I was able to explore ways to utilize the wisdom and sagacity of northern indigenous people in modern society as an extension of one of the sculptural concept through this series of sculpture entitled "To Sense an Indication...Idea of Forest in the North".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術一般

キーワード：美術論・現代美術・彫刻・インスタレーション・北方先住民・狩猟採集文化・クマ儀礼・マタギ

1. 研究開始当初の背景

- (1) 当該研究の構想の手掛かりとなったのは、学際的研究組織である『国際クマ文化委員会・International Committee on the Bear Culture(ICBC)』（設立：平成 17 年、

委員長代表：谷本一之（北海道教育大学名誉教授・北海道立北方民族博物館館長）、副委員長：Jean Dominique Lajoux（CNRS フランス国立科学研究所）、名誉会長：D.Carleton Gajdusek（76 年ノー

ベル医学・生理学賞受賞)、本部：北海道大学総合博物館、研究申請：平成18年度独立法人日本学術振興会「先端研究拠点事業」(申請者：北海道大学総合博物館・助教授・天野哲也)の委員として『ヒグマ学入門-自然史・文化・現代社会-』(北海道大学出版会)へ彫刻家の立場から執筆するなど、学祭的研究協力関係を得たことにある。

- (2) 当該研究準備段階においては、上記(1)の学祭的研究協力関係のもとに実地調査を行い、クマ文化資料の研究から、研究拠点である北海道を環北太平洋北方圏の広範な地域や自然環境との関連から俯瞰し、北米北西海岸先住民の民俗誌に関する実地調査(北海道教育大学学術研究推進経費獲得)を行った。
- (3) 現代美術領域で国内外の研究動向に対する本研究の位置づけは、空間を造形する彫刻分野の表現において、自然誌や人類学系分野の研究成果を参考に、博物館や『国際クマ文化委員会』、調査対象地域の専門知識提供者などの学祭的研究協力を得て、下記①や②のとおり彫刻の概念を拡張した創作研究発表を展開してきた。

①



けはいをきくこと・・・'05・5・5、2005 樹を語り作品展・坂巻正美展、エコミュージアムおさしまセンター／北海道

②



けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想 I、2006 アート@つちざわく土澤>、花巻市東和町土沢地区、萬鉄五郎美術館を中心とした市街一帯／岩手県

2. 研究の目的

(1) 国家を拠り所とする集団は、歴史的にみて農耕牧畜の大規模化の果てにお金の文化を生み出した。現代社会は、このお金の文化を極め、特に自然環境と経済・産業活動との関係において様々な破壊的仕組みを持つに至った。このような現代の社会状況に対抗するイメージの創出をめざすべく、北方先住民の部族社会で営まれてきた狩猟採集の伝統文化が持つ感性や思考方法からその現代的意義を見いだす目的が当該研究である。

(2) 具体的には、環北太平洋北方圏の先住民文化について、その現代的意義をモチーフとした空間造形について研究することであるが、研究拠点の北海道はもとより、研究対象地域に広がる狩猟採集の伝統を継承する先住民の文化から、共通する生き方の知恵を探り、その現代的意義を見いだしていく。

(3) 上記(2)の調査及び資料で知り得た北方狩猟民の伝統的叡智を芸術表現によるイメージとして再生し、創作研究及び研究発表を行うことで現代社会に活用する方法を提案していく。

(4) 上記(1)～(3)で得た成果を学会や国際美術展及びウェブサイト等で公開していく。

3. 研究の方法

(1) 上欄「2. 研究の目的」で述べたとおり、彫刻的空間造形の創作研究の構想として、下記①～③のとおり、当該研究対象地域の実地調査を進めた。

① 道内各地に残る古いアイヌ文化の痕跡を実地調査すると同時に、古老を訪ねる等の聞き取り及び造形素材の収集。

② 東北地方のマタギ文化や山岳信仰(早池峰山伏神楽・権現舞)とクマ信仰の関連について聞き取り及び造形素材の収集。

③ 北米北西海岸及びロシア極東地域における狩猟や動物儀礼を中心とした先住民の歴史や文化に関する実地調査及び作品素材の収集。

(2) 当該研究では、芸術の社会性という視点か

ら人類学系分野の研究手法を参考に彫刻の概念を拡張し、この分野における革新的表現として上記(1)の現地調査で得た資料をもとに、空間造形表現の作品構想を行った。

- (3)現代社会には、物質的経済価値を最優先する社会システムを変更できない状況がある。芸術における自由と創造性の意義は、これに対抗し、精神的価値を優先させていく役割がある。狩猟採集の伝統文化を継承する北方先住民に伝わる思考と感性には、狩猟獣との命のやり取りの営みから物質的価値と精神的価値両者のバランスを保つ知恵がある。ここに芸術と共通する思考と感性をみる。狩猟採集文化の知恵を空間造形表現におけるイメージとして再生し、先にあげた現代の社会状況に活用する装置として機能する作品の創作を試みた。

4. 研究成果

- (1)当該研究成果としての作品創作研究発表では、上欄の「3. 研究方法」を踏まえ、展示発表を行う場所の歴史性を「2. 研究の目的」欄に記載したと関連付けて構想し、下記①～④のとおり、公共的空間及び美術館等にて広く一般に公開した。

- ① 札幌のオフィスビル内にて北方先住民におけるクマ儀礼をモチーフとした作品を発表し、かつてこの場所でも営まれてきたであろう動物と人間の関係における物質的・精神的価値のバランスについて考える空間を創出した。



けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想Ⅲ（振り方 その1）、2010、Ohi Toshiyasu・Sakamaki Masami Exhibition, STV エントランスアート／札幌

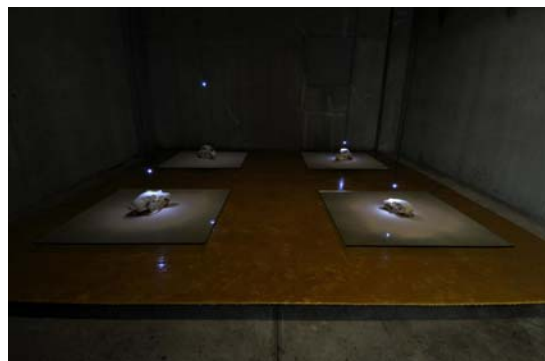
- ② 北海道大学総合博物館の協力を得、旧札幌農学校第2農場牧舎（国指定重要文化財）にて、歴史的素材としての大規模農業による北海道開拓の象徴である建築物に対峙する狩猟採集文化のように、アイ

ヌ及び北方先住民のクマ儀礼を引用したオブジェを重ねていく空間造形作品を発表した。



けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想Ⅳ、2010、坂巻正美展、北海道大学・旧札幌農学校第2農場牧舎〔国指定重要文化財〕

- ③ 日本列島における北方文化圏の南限の地域でもある新潟で行われた国際芸術展「水と土の芸術祭2012」への招聘を受け、発表場所の歴史及び伝統文化の調査を行い、地元のマタギや神楽連中の協力を得た作品発表を行った。関連事業としてクマ文化及び民俗芸能に関するシンポジウムを開催した。



けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想（南限のチャシ1、2012、開港都市にいがた水と土の芸術祭2012、水と土の芸術祭／新潟

- ④ 北方先住民に継承されてきたクマ儀礼の

原型のひとつとみられているオホーツク文化の代表的考古学資料を有する北海道オホーツク海沿岸地域の場所の歴史性を空間造形表現の素材とし、当該研究全体の成果をまとめる美術展を網走市立美術館にて開催した。



けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想 Cipasir, 2013, 坂巻正美展, 網走市立美術館

(2)当該研究に関する学会発表及び国際シンポジウム等への招待講演及び論文発表等による当該研究成果の公開から、上記(1)の①と②及び「我孫子国際野外美術展2011」に招待作家として作品発表を行い、広く一般に研究成果を公開することができた。<http://abikoe.com/>

(3)一連の研究成果の公開から、上記(1)の③の国際芸術展「水と土の芸術祭2012」(来場者数:58,781人)へ半年間にわたって招待作家として作品発表した。当該研究の成果

を芸術祭関連事業及びテレビ・ラジオ・新聞・雑誌等、各種報道機関にて広く一般に公開できた。<http://www.mizu-tsuchi.jp/>

(4)研究最終年度は、上記(1)の④の網走市立美術館にて当該研究の総括としての成果発表を行うことができた。この展覧会発表も各種報道機関にて広く一般に公開できた。

(5)上記(1)～(4)及び当該研究全体の成果は、ウェブサイトにて公開している。<http://kuma-s.org/>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 坂巻 正美、作品「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」先住民文化探訪から彫刻概念の拡張へ、『第25回北方民族文化シンポジウム』報告書 現代社会と先住民文化 ―観光、芸術から考える―②、査読無、2011、43-48

〔学会発表〕(計13件)

- ① 坂巻 正美、「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想 Cipasir」、坂巻正美展、2013.3.16～4.14
- ② 赤羽 正春、坂巻 正美、高森チャシのシン談義、開港都市にいがた水と土の芸術祭、2012.11.17、水と土の芸術祭／新潟
- ③ 坂巻 正美、「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想(南限のチャシ3)」、開港都市にいがた水と土の芸術祭、2012.7.14～12.24、水と土の芸術祭／新潟
- ④ 坂巻 正美、「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想(南限のチャシ2)」、開港都市にいがた水と土の芸術祭、2012.7.14～12.24、水と土の芸術祭／新潟
- ⑤ 坂巻 正美、「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想(南限のチャシ1)」開港都市にいがた水と土の芸術祭、2012.7.14～12.24、水と土の芸術祭／新潟
- ⑥ 石川直樹、伊野 義博、坂巻 正美、『「原初的なもの」をどう美術教育に生かすか』、第34回美術科教育学会 新潟大会

シンポジウムに招待講演、2012.3.27、新潟大学

- ⑦ 坂巻 正美、『けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想(うぶすな詣で)』、第14回「我孫子国際野外美術展」、2011.10.29～11.23、我孫子国際野外美術展実行委員会／千葉県
- ⑧ 坂巻 正美、「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想IV」、第50回大学美術教育学会全国学会(宮城大会)、2011.9.24～9.25、宮城教育大学
- ⑨ 坂巻 正美、作品「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」先住民文化探訪から彫刻概念の拡張へ、第25回北方民族文化シンポジウム、2010.10.17、オホーツク・文化交流センター(北海道網走市)
- ⑩ 坂巻 正美、旧札幌農学校第二農場牧舎サイロでの展示プロジェクト「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」(作品シリーズ2点)、北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院公開シンポジウム「地域発・草の根文化の時代」、2010.10.16～11.2、北海道大学
- ⑪ 坂巻 正美、北方圏における森の思想Ⅲ(フィールドワークによる空間造形)、第49回大学美術教育学会全国大会(東京大会)、2010.9.19～9.20、武蔵野美術大学
- ⑫ 坂巻 正美、北方圏における森の思想Ⅱ(フィールドワークによる空間造形)、第48回大学美術教育学会全国大会(愛知大会)、2009.9.26～9.27、国際デザインセンター
- ⑬ 坂巻 正美、北方圏における森の思想(フィールドワークによる空間造形)、第47回大学美術教育学会全国大会(高知大会)、2008.11.2～11.3、高知大学

〔図書〕(計2件)

- ① 小川弘幸、堀川久子、坂巻正美、他、水と土の芸術祭実行委員会、開港都市にいがた水と土の芸術祭 2012 作品記録集、2013、174 (084-085)
- ② 小川弘幸、堀川久子、坂巻正美、他、水と土の芸術祭実行委員会、開港都市にいがた水と土の芸術祭 2012 ガイドブック、2012、96 (24-25、29、66)

〔その他〕

ホームページ等

MASAMI SAKAMAKI

<http://kuma-s.org/>

当該研究成果のウェブ版作品集

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂巻 正美 (SAKAMAKI MASAMI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60292067

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし